慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	川合隆男教授略歴・主要著作一覧
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2004
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.77, No.1 (2004. 1) ,p.489- 498
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	川合隆男教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20040128-0489

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

川合隆男教授略歴

一九三八年七月二五日　山形県に生まれる
一九五七年三月　山形県立山形工業高等学校（建築科）卒業
一九六一年三月　慶應義塾大学法学部政治学科卒業
一九六三年三月　同大学大学院社会学研究科修士課程修了　社会学修士
一九六六年三月　同大学大学院社会学研究科博士課程修了（単位取得退学）
一九七五年九月　社会学博士（慶應義塾大学）

職歴

一九六四年四月　慶應義塾大学法学部助手
一九六七年四月　同　専任講師
一九七〇年四月　同　助教授
一九七〇年八月～一九七一年八月　福沢記念学事振興基金により米国プリンストン大学社会学部に留学（訪問研究員）
一九七七年四月　慶應義塾大学法学部教授
一九七八年四月　同　大学院法学研究科委員、大学院社会学研究科委員
一九八〇年四月～一九八一年九月　大学通信教育部副部長
一九八八年三月～同年九月　大韓民国　延世大学校文科大学客員教授

一九八九年三月～同年九月　イギリス　ノッティンガム大学社会学部訪問教授
一九九四年一〇月～一九九五年三月　東京大学文学部（学部及び大学院）非常勤講師
一九九九年一〇月～二〇〇一年九月　大学法学部長補佐
二〇〇一年九月～二〇〇二年三月　明治学院大学社会学部非常勤講師

学会所属等

日本社会学会、日本社会学史学会　（一九九七年六月～一九九九年五月　理事）、関東社会学会（一九九一年～一九九三年　理事）、三田社会学会（一九九六年～一九九九年　会長）

一九七六年　義塾賞受賞（『社会的成層の研究―現代社会と不平等構造―』）

二〇〇三年　福澤賞（『近代日本社会学の展開』を中心とした日本社会学史、社会調査史に関する研究業績）

川合隆男教授主要著作一覧

著編書

『社会的成層の研究―現代社会と不平等構造―』　世界書院、一九七五年
『社会学―現代社会学の課題―』（共著）　勁草書房、一九八八年
『近代日本社会調査史（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）』（編著）　慶應義塾大学出版会、一九八九年、一九九一年、一九九四年
『大都市における社会移動と地域生活の変化』（地域生活研究会編）（報告書）　一九八二年
『近代日本社会学関係雑誌記事目録』（編）　龍溪書舎、一九九七年
『近代日本社会学者小伝』（川合隆男・竹村英樹共編著）　勁草書房、一九九八年
『都市論と生活論の祖型―奥井復太郎―』（編著）　慶應義塾大学出版会、一九九九年
『近代日本社会学の展開―学問運動としての社会学の制度化―』　恒星社厚生閣、二〇〇三年
『戸田貞三』　東信堂、二〇〇三年
『近代日本における社会調査の軌跡―社会観察・社会調査と社会学―』　恒星社厚生閣、近刊

復刻編集

『明治期社会学関係資料』（全一〇巻）　龍溪書舎、一九九一年
『現代社会問題研究』叢書（全二五巻）（共監修）　龍溪書舎、一九九三年
『戸田貞三著作集』（全一五巻）（監修）　大空社、一九九三年
『奥井復太郎著作集』（全九巻）（共監修）　大空社、一九九六年

『日本社会学院年報』（全一一巻）　龍溪書舎、一九九九年

訳書

G・イーストホープ著『社会調査方法史』（監訳書）　慶應義塾大学出版会、一九八二年
S・P・シャド著『ドイツ・ワイマール期の社会調査』（共監訳書）　慶應義塾大学出版会、一九八七年
J・ベルティング他編『国際比較調査の諸問題』（共監訳書）　慶應義塾大学出版会、一九八八年
K・プラマー『生活記録の社会学―方法としての生活史研究案内―』（共監訳書）　光生館、一九九一年
L・シャッマン、A・L・ストラウス著『フィールド・リサーチ』　慶應義塾大学出版会、一九九九年

論文

「後進国における社会経済的発展―工業化過程の動態についての分析枠試論」　『法学研究』第三七巻一〇号、一九六四年
「日本の近代化と『後進国』」　『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』四号、一九六四年
「社会移動の社会学」「後進国の社会学」米山桂三編『現代社会の社会学』　世界書院、一九六六年
「後進国社会における発展の停滞と社会的統合」『米山桂三博士還暦記念論文集』　慶應通信、一九六七年
「インドネシア共和国における軍の役割」慶應義塾大学地域研究グループ『変動期における軍部と軍隊』　慶應通信、一九六八年
「後進国における文化変容と社会変動について」　『アジア研究』第一五巻一号、一九六八年
「原爆と社会変動（1）（2）―原爆被災者の社会人口誌学的考察と職業・職場集団の原爆体験―」（米山桂三と共同執筆）　『法学研究』第三八巻九号、一〇号、一九六五年

「原爆被爆とその後の社会生活ー地区事例調査による比較考察ー」（米山・原田勝弘との共同執筆）　『法学研究』第四一巻三号、一九六八年
「原爆被爆者の社会生活の変化（1）（2）ー広島市地区事例調査にみる社会的再構造化過程ー」　『法学研究』第四二巻九号、一〇号、一九六九年
（原田・田中直樹との共同執筆）
「比較社会学序説」　『三色旗』二六二号、一九七〇年
「ナショナリズムの展開と近代化の模索」矢内原勝編『近代化の条件』　ダイヤモンド社、一九七〇年
「比較社会学的研究の展開」　『法学研究』第四五巻三号、一九七二年
「社会学と比較社会学的研究」　『法学研究』第四五巻九号、一九七二年
「社会学的接近法」　『三色旗』三〇二号、一九七三年
「現代日本の階級構造の変化とホワイト　カラー層ー一九五五～一九七〇ー」『法学研究』第四六巻九号、一九七三年
「現代社会と不平等構造ー社会的成層の研究ー」　『法学研究』第四七巻一〇号、一九七四年
“The Formation and Fluctuation of The New Middle Class in Modern Japan, 1900-1930,” *Keio Journal of Politics*, No. 2, 1976
「『新中間層』論序説」　『法学研究』第四九巻一〇号、一九七六年
「『ホワイト　カラー』層の増加をめぐってー労働者生活像の変貌ー」　『三色旗』三四五号、一九七六年
「近代日本における社会成層研究の生成」　『法学研究』第五〇巻五号、一九七七年
「社会学ー基本文献」　『三色旗』三六〇号、一九七八年
「職歴研究における基本課題」　『法学研究』第五二巻一号、一九七九年
「社会成層、階級、階層ー成層研究の動向と現代日本の階級構造ー」　山中一郎編『社会学シンポジウム』文教書院、一九七九年

「社会調査方法史について―近代日本における社会調査方法の模索と『月島調査』」　『法学研究』第五三巻九号、一九八〇年
「戦後日本の社会移動研究―その展開と諸問題について―」　『法学研究』第五四巻六号、一九八一年
「『月島調査』再考察（1）（2）―わが国近代都市労働者形成と『月島調査』」　『法学研究』第五四巻八号、九号、一九八一年
「P・A・ソローキンの社会移動論とその検討」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』（共著）　二二号、一九八二年
「脱産業社会と中流意識―現代日本の中流帰属意識化状況をめぐって」　津田・名東・青沼編『日本的経営と産業社会』新評論、一九八二年
「星野鉄男―愛児のために何をなすか―」　生活研究同人会編『近代日本の生活研究』光生館、一九八二年
「社会学―入門書および基本文献―」　『三色旗』四二〇号、一九八三年
「大都市構造の変化とインナーシティ　エリア」　『慶應義塾大学創立一二五周年記念論文集　法学部政治学関係』、一九八三年
“Studies on Social Mobility in Postwar Japan; their development and problems,” *Keio Journal of Politics*, No. 5 1984
「ライト・ミルズの知的職人論と社会学的啓蒙―現代社会学の地平とその批判的考察―」　『法学研究』第五八巻二号、一九八五年
「社会学」　内山秀夫編『政治　行政学の要点整理』法学書院、一九八六年
「社会理論」　『イミダス』集英社、一九八六年
「階級帰属意識の構造と社会的脈絡」　『法学研究』第五九巻七号、一九八六年

「近代日本社会調査史研究の課題」　『法学研究』第六一巻一号、一九八八年
「「日本社会学会」の設立とその後の経緯」　『法学研究』第六一巻五号、一九八八年
「階級意識の構造と動態―一つの覚え書きとして―」
明治学院ＣＰＳＳ研究会『社会変動と階層構造の動態に関する国際比較研究』所収、一九八八年
安敬春著、井田哲一・川合共訳、「韓国社会学の先駆者　河敬徳」　『法学研究』第六二巻六号、一九八九年
「横山源之助の『日本之下層社会』と『南米ブラジル案内』」
川合編『近代日本社会調査史（Ⅰ）』所収、慶應義塾大学出版会、一九八九年
「日本社会学の最近の動向と反省」　『法学研究』第六三巻三号、一九九〇年
「近代日本社会学の草創と慶應義塾」
慶應義塾大学部開設一〇〇年記念パンフレット所収、福沢研究センター、一九九一年
「社会学史関係資料―塾員（故）尾関一夫氏よりの聴き取り資料―」　『法学研究』第六四巻二号、一九九一年
「慶應義塾初代社会学教授　田中一貞」　『近代日本研究』第七巻、一九九一年
（書評論文）「戦後日本における「階層構造」研究の足跡と転機―『現代日本の階層構造』（全四巻）のひとつの書評―」
『社会学評論』一六五号、一九九一年
「国勢調査の開始―民勢調査から国勢調査へ―」
川合編『近代日本社会調査史（Ⅱ）』所収、慶應義塾大学出版会、一九九一年
「解題『社会雑誌』『社会』『社会学雑誌』」　『明治期社会学関係資料』全一〇巻、龍溪書舎、一九九一年
「社会意識としての階級意識の構造と動態―階級意識調査の再考―」　『法学研究』第六五巻一号、一九九二年
「近代日本社会学史研究と布川孫市の社会学」　『法学研究』第六六巻三号、一九九三年
「学問運動としての社会学の生成と制度化―特に明治期社会学界の動きと布川孫市の社会学を中心に―」

『社会学史研究』第一五号、一九九三年
「解題　日本社会学院と『現代社会問題研究』叢書」　『現代社会問題研究』叢書、全二五巻、龍溪書舎、一九九三年
「横山源之助と社会観察」
石川淳志・橋本和孝・浜谷正晴編著『社会調査―歴史と視点―』ミネルヴァ書房、一九九四年
“The Structure of Social Class Identification; The Social Context in Postwar Japan,”
Keio Journal of Politics, No. 7 1994
「下出隼吉の日本社会学史研究―日本社会学史研究における断続と継承―」　『法学研究』第六七巻五号、一九九四年
「戦時化・戦中期における失業調査―「失業統計調査」と「失業者生活調査」―」
川合編『近代日本社会調査史（Ⅲ）』慶應義塾大学出版会、一九九四年
「高木正義の社会学模索」　『法学研究』第六八巻九号、一九九五年
「日本の社会学史と社会調査史」　有末賢・霜野寿亮・関根政美編『社会学入門』弘文堂、一九九六年
「社会学はいま、何をなすべきか―わたし自身の回想的・内省的な模索（戯れ）―」
『三田社会学』創刊号、一九九六年
「戸田貞三による社会調査論の展開」　『法学研究』第六九巻一〇号、一九九六年
「解題　第四巻―奥井復太郎の都市社会調査―」　『奥井復太郎著作集』別巻、大空社、一九九六年
「奥井復太郎の都市社会調査と未完の都市研究」　『三田社会学』第二号、一九九七年
「変革期における生活機会と生活様式の選択―戦後日本社会における現在の歴史的社会的状況―」
田中宏・大石裕編『政治・社会理論のフロンティア』（慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念出版）
慶應義塾大学出版会、一九九八年
「解題　雑誌『日本社会学院年報』『社会学研究』と建部遯吾」

『日本社会学院年報』（復刻版）全一一巻、龍溪書舎、一九九九年
「建部遯吾の社会学構想―近代日本社会学のひとつの底流―」　『法学研究』第七二巻五号、一九九九年
「戦時下における雑誌『年報社会学』の軌跡」　『法学研究』第七四巻三号、二〇〇一年
「近代日本社会学史研究の展開と可能性」　『法学研究』第七四巻一二号、二〇〇一年
「解題「月島調査」について」　復刻版『東京市京橋区月島ニ於ケル実地調査報告』第一巻・第二巻、龍溪書舎、二〇〇二年

書評

W・F・ヴェルトハイム著『東洋と西洋の並行』　『法学研究』第三九巻一号、一九六六年
J・A・ポンシュン著『社会変動分析の再考察』　『法学研究』第四〇巻一号、一九六七年
十時厳周著『産業人類学序説―工業化と文化変容―』　『法学研究』第四〇巻五号、一九六七年
新明正道著『社会学的機能主義』　『法学研究』第四一巻七号、一九六八年
T・バーンズ／S・B・ソール著『社会理論と経済変化』　『法学研究』第四二巻一号、一九六九年
森博著『社会学的分析』　『法学研究』第四二巻九号、一九六九年
S・M・リプセット／R・ベンディクス著（鈴木広訳）『産業社会の構造―社会的移動の比較分析―』　『法学研究』第四三巻八号、一九七〇年
安田三郎著『社会移動の研究』　『法学研究』第四二巻一二号、一九七二年
S. M. Miller and P. A. Roby, The Future of Inequality.（『不平等の将来』）　『法学研究』第四七巻一一号、一九七四年
河村望著『日本社会学史研究（上・下）』　『法学研究』第五〇巻一〇号、一九七七年

隅谷三喜男、古賀比呂志編著『日本職業訓練発展史』（戦後編）』　『法学研究』第五一巻一二号、一九七八年
富永健一編著『日本の階層構造』、鈴木広編『コミュニティ・モラールと社会移動の研究』
『法学研究』第五二巻一〇号、一九七九年
秋元律郎著『日本社会学史－形成過程と思想構造－』　『法学研究』第五三巻六号、一九八〇年
島崎稔著『社会科学としての社会調査』　『社会学評論』一二四号、一九八一年
山口節郎著『社会と意味－メタ社会学－』　『法学研究』第五六巻五号、一九八三年
J. E. T. Eldridge, C. W. Mills.　『法学研究』第五七巻一二号、一九八四年
（読書ノート）杉原薫・玉井金吾編『大正／大阪／スラム－もうひとつの日本近代史－』
『日本労働協会雑誌』No. 331、一九八六年
小笠原真著『日本社会学史への誘い』　『社会学評論』vol. 51, no. 2、二〇〇〇年